

(別紙1)

尼崎市支え合いを育む人づくり支援事業 教育・研究活動事業実績報告書

教育・研究活動名	尼崎市の子ども食堂における食育教材作りと学習機会の創出			
申請大学・高校等名	大学及び 高校等名	武庫川女子大学		
	活動 グループ名	美味しい漢字教室	参加学生 等人数	42人
指導責任者名 及び連絡先	学部・学科等 名称	教育学部 教育学科		
	責任者氏名	吉井 美奈子	連絡先 電話番号	
	E-mail			
協働する市民活動団 体及び代表者名	団体名	モコモコ倶楽部		
	代表者氏名	小林 三枝子	連絡先 電話番号	
	E-mail			
教育・研究活動 目標	本活動では、尼崎市の子ども食堂(モコモコ倶楽部)の子ども達と武庫川女子大学生との交流を通して、子ども食堂の交流拠点機能として、学習機会を創出することを周知していく。2021年度の活動では、コロナ禍の影響で、子どもとの交流機会が少なかった。2022年度は学生と子ども食堂の子ども達が交流する機会を増やし、食育と漢字を学べる教材で遊んだり、新たな教材を作ったりしながら、食育と漢字の知識の定着を図る。定着した知識は評価し、評価に応じた褒賞を設けて、子ども食堂に通う子ども達の食生活(栄養等を含む)や漢字に対する関心を高めるだけでなく、子ども食堂を何度も利用して交友関係や社会性を育み、社会参画や地域交流が持続可能か、検証することを目標とする。			
活動内容及び 実績、評価	コロナ感染に配慮しながら、以下の活動を実施した。 (学生)①子ども達との交流を通じて、社会参画、地域交流の重要性を再認識する。②子ども達への食知識や関心、漢字の知識等を知り、教材を作成・活用することで、子ども達との交流を深める。(子ども達)①大学生との関わりをもつことで、食や漢字の知識を深める。②自分の知識が評価されることで自信を持つ。(モコモコ倶楽部)①地域交流の場としての子ども食堂の機能、存在意識を高める。②利用者を増やす。 ◆活動の内容 ・大学生らは、各自の専門性(日本語日本文学科、食物栄養学科、教育学科)を活かし、子ども達へのかかわり方や学修支援(漢字と食育を中心)の方法、楽しく学ぶための教材について検討、作成した。 具体的には、各月ごとに紙芝居形式のクイズを作り、子どもたちに食材漢字を考えさせながら、最後に缶バッジづくりを行った。 ・尼崎市民まつりでは、缶バッジづくりや、塗り絵を楽しむブースを担当した。 ・子ども食堂「モコモコ倶楽部」にてクリスマス会が企画された際に参画し、市民活動団体の活動者らと共に、協同でクリスマス会を開催した。その際、子ども達と漢字の缶バッジ作りや、作成した教材を使ったゲームを実施した。支援者にも参加してもらえる野菜チェック等の機会の提供をした。 ・漢字と食育の融合教材を作成するために、学生らが関連施設などで研修を受けた。 ・学生らの活動が感染症対策のために制限された期間は、Zoom や LINE を使用した遠隔での会合を行った。			

・活動報告会を実施した(学生による活動報告会 2月2日、ららぽーと甲子園でのイベントで紹介:2月19日)。

◆想定していた活動成果に対する達成度合い(達成できたこと、できなかったこと等)
(達成できたこと)

- ・ほぼ毎月、子ども食堂での活動の実施ができた。
- ・子ども達が楽しく漢字と食を学ぶための教材を検討し、作成した。
- ・子ども食堂で、子ども達と大学生が交流し、大学生は子ども達の漢字学習への意欲や食生活についての現状を把握できた。
- ・子ども食堂内だけでなく、尼崎市民まつりや、ららぽーとのイベント等に参加したことで、子ども食堂以外の子どもたちへのアプローチもできた。

(達成できなかったこと)

- ・子どもたちと接する時間が短かったり、子ども食堂に来る子ども達も少なかったりしたため、学習支援活動を持つ機会は多く実施できなかった。一方で、宿題をみることや、漢字に関心を持たせるという形での学習支援はできた。

◆学生等の学習意欲、地域に対する考え方の変化

- ・本学の学生らは、主体的に行動することが課題に挙がることが多いが、コロナ禍で限られた機会に向けて、学内での活動ではあったが主体的に子ども達が求めることについて考えられるようになった。
- ・学部が異なる学生同士の交流が生まれ、お互いに刺激を与えあっていた。それぞれの知識や専門性を生かした交流ができていた。
- ・本学から徒歩圏内にある街を知り、学生らがいかに地元のことを知らなかったか、ということを再認識していた。
- ・子ども食堂が特殊な場所だと考えていた学生らが、身近な場所として、そして子ども達にとっても地域にとっても必要な「場」であることを認識していた。
- ・祭り等に参加し、市民との関りを持つ機会があり、改めて様々な人が地域にいること、自分たちのすべきことなどを考える機会になっていた。

◆市民活動団体の活動者からの視点を踏まえ、学生が関わったことによる地域や市民活動団体の活動の変化等

- ・子ども食堂における子ども達との関りに、若い学生らが含まれることで、活動全体に活気が出たと感じていた。
- ・通常の活動に加え、学生らによるアイデアや活動内容、イベントなどが含まれることによって、子ども達へ刺激になっただけでなく、活動者らへも参考となるものとなった。
- ・協同でのイベント開催(クリスマス会)ができ、準備や実施が更に盛り上がった。
- ・僅かではあるが、学生らの活動で集まった支援金を寄付することで、活動に役立ててもらえる資金となった。
- ・協同でのイベント開催時、市民活動者にも参加してもらえるブースを学生・教員が作ったことで、活動者も楽しめる機会があった。

(活動の写真は枠外に添付)

※ 報告書の内容及び掲載写真は、市報、HP等の市の発行する媒体への掲載される場合がありますので、事前に学生等の同意を得た上で、提出をお願いします。



尼崎市民まつり



尼崎市民まつり



子ども食堂での活動の様子



クリスマス会での漢字ゲームの様子



ららぽーと武庫女フェスでの紹介



ららぽーと武庫女フェスでの紹介